

令和6年度 第1回会派代表者会（会議録）

期日：令和6年4月5日(金)10時50分

会場：B101号会議室

- 1 開 会
- 2 議長挨拶
- 3 確認・協議事項

【○説明事項、□意見、★決定（確認）事項、◎会派検討依頼事項】

(1) 自治基本条例の学び直しについて

- （議長）資料「自治基本条例の学び直し等に伴う議会の役割について(案)」に沿って説明。特に3.②に記述の「住民自治の根幹は議会」であり～（略）～自治振興センター所長とともに学習し、意見交換等を行う。」上で、平沢和人氏を講師に学習会を5月1日に開催したい。
- （局長）補足として、執行部側では、議会からの提言や一般質問を踏まえ、当初予算の検討過程において、市長から主管部局に対して、議会及び行政が一緒になって取り組むことをオーダーしている。今回の組み立ては、執行部側の課題認識を含め調整した結果となっている。加えて、基本目標9の後期計画の書きぶりにも影響のあるところであり、議会からの提言といったアウトプットを意識していただきたい。

（質疑）

- 議会の書簡は、政務調査に位置付けている総務委員会、あるいは、議運、議会改革なのか。進め方によって、事務負担が相応に生じる。一旦会派へ持ち帰り、検討する必要があるかどうか。
- 既に総務委員会の所管事務調査において、検討していくことが確認されているところ。具体の検討は今後となる。また、行政評価では、予算決算準備会において、全議員と共有された上で、提言の中へ落とし込むことを想定するところ。議会改革の点では、議会基本条例策定への影響があるのか。現段階では具体的な想定はないが視野に入れておく必要がある。
- 総務委員会所管とのことであるが、今後、センター所長やまちづくり委員会との議論では、全議員が認識を共有して臨む必要がある。また、過去の検証においては、議会に関して検証した一方、行政および市民に関する検証については、行政側が検証しないことから議会側で検証するとは至らなかった経過がある。しかし、今後の検証においては、行政、市民に係る条文が現状と整合しているかを視点とする必要があり得るのではないか。
- 市側には、検証の計画はないとしている。地域自治振興課の地域づくりを考える学習活動の充実においては、藤山浩氏による田園回帰1%戦略の学び直しの計画があるようである。議会としては、地域協議会やまちづくり委員会の役割の学び直しは、平沢氏から学ぶ視点であり、今後の取り組みを考える上で必要である。原点に立ち返って学び、今の時代にどうあるべきかを考える必要がある。
- 平沢和人氏の話の聴講することからスタートでよいのではないか。その上で、具体的な取り組みを考えていくことでよいのではないか。
執行部側の取り組みにおいて歩調が合わせられるものは、議会側も一緒に取り組むことがあり得る。

計画（案）は、執行部側が立案したもののか。

- 本計画案は、執行部と議会事務局が協働して柱となる部分を作成し、共有したものである。執行部へは、ある程度ゴールを想定して取り組む必要があると進言してるところ。
- 本件について、まずは平沢和人氏の話聞くことから始めることに異論はない。議会のスタンスがイメージし難い。市民と一緒に考えることは、初のことであり、進め方には十分留意する必要がある。3の②を前提にまちづくり委員会と議論するには、覚悟を持って臨む必要がある。評価モデルで培ったスローガン、ビジョン、ミッションの議会内で理解し、臨むことがなければドロドロとした議論に陥る可能性がある。
- 懸念することも当然ある。会派に持ち帰って議論いただきたい。まずは平沢氏の話聞くことから取り組み方法を検討することも大切。

★5月1日の午後の早い時間帯から 1.5 時間程度を想定いただきたい。会派内の議論を持ち寄り、今後の進め方を検討することとしたい。

◎平沢和人氏の話の聴講後、今後の進め方について会派内において議論いただきたい。

○総務委員会の提言との話もあるが、正副議長のリーダーシップによる議会全体としての取り組みとする必要がある。また、地域のコーディネーターとしての役割に言及されているが、議員のいない地区もあることからこの視点からも総務委員会の中で議論いただく必要がある。

(2) その他

(社会文教委員会からのお知らせ)

所管事務調査（3月定例会）において、子ども政策をテーマとした。子育て関係者に広く意見聴取（アンケート）するため、委員に会派へ持ち帰り協力の呼びかけを依頼したことからご承知おき願いたい。文書は、本日付けにて発出する。

4 閉 会